

○議長（山内 寛） 説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず通告者の発言を許します。

16番 櫻井 周議員。———櫻井議員。

○16番（櫻井 周）（登壇） ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、通告に従いまして質疑をさせていただきます。

第56号議案、副市長の選任についてでございますが、私も行澤理事が副市長の最有力候補だろうと、何となくは思っておりました。ただし、何となくということであっては議決責任果たせませんし、市民に対する説明責任も果たせないということで、改めてお尋ねさせていただきます。

まず最初に、副市長の職務に照らしての適格性ということでございます。

副市長の職務については地方自治法167条に規定されておりまして、副市長は市長を補佐し、市長の命を受け、政策及び企画をつかさどり、その補助機関である職員の担任する事務を監督し、別に定めるところにより市長の職務を代理するというふうに規定されております。しかし、これは非常に抽象的な規定の仕方になっておりまして、よくわからない部分も多々ございます。

市長及び副市長の職務には、市の代表としての側面、市役所内部のマネジメント、対外交渉の責任者、議会対応などさまざまな面があろうかと思えます。

また、近隣市の状況を見てみますと、副市長2人体制という自治体もございますが、伊丹市の場合は1人体制で臨んでいるということでございますから、伊丹市の副市長の業務負荷というのは近隣市に比べて大きいというふうにも言えるかと思えます。その分、重要性がさらに高い人事案件であるというふうに考えております。

そこでお尋ねをいたします。副市長の職務を改めて御説明いただき、御提案の副市長、行澤氏がその職務を遂行できるだけの経験と能力を備えているということを具体的に改めて御説明いただきたいというふうに思えます。

次に、市長と副市長のコンビについてでございます。

藤原市長は、最初就職をされるときに技官として建設省に入省されたというふうに聞いております。また御提案の行澤氏も技術職として伊丹市に入所をされたというふうに聞いております。

そこでお尋ねをいたします。市長も副市長も技術職出身というのは余り例がないように思われます。もしかすると、このような組み合わせを心配する向きもあるかもしれませんが、こうした心配は無用であるということをお説明いただきたいと思えます。

ちなみに私自身も理科系の出身ということでございますが、こうした役所の人事、特に管理職以上において理系、文系という区分け、事務職、技術職とい

う区分けをすること自体は余り意味がないというふうにも思っております。

国の役所の例では、技官が事務次官になるというふうな例も少なからずございます。事務職出身であろうが技術職出身であろうが、しっかりとマネジメントできる副市長がよい副市長だというふうに思っております。

最後に、新しい副市長への期待についてお伺いをいたします。

昨年、伊丹市では事務処理ミスが多数発見されました。この再発防止は事務方トップである副市長の取り組むべき大きな課題であろうかと思えます。そのほか副市長が取り組むべき課題、たくさんあるかと思えます。さまざまな課題がある中で、新しい副市長に対してどのような期待を持っておられますでしょうか。今回の副市長人事にかける思いをお聞かせください。

以上で1回目の発言を終わります。

○議長（山内 寛） 藤原市長。

○番外（市長藤原保幸）（登壇） 副市長の選任についてのお尋ねでございますけれども、副市長とはということなんでありますが、長を補佐して、長の命を受け、政策及び企画をつかさどり、その補助機関である職員の担任する事務を監督し、場合によりまして長の職務を代理するということでありまして、要は私の施政全般にかかわります補佐役ということでございます。

今回私のほうから御提案いたしております行澤睦雄氏におきましては、昭和57年に伊丹市に入所されて以来市政のさまざまな分野で、また職員を管理監督する立場で職務に精励してこられた方でありまして、私も10年ほど一緒に仕事をする中で、副市長として十分な経験と能力を有するというふうに考えたものでございます。

次に、市長も副市長も技術職出身で大丈夫かといった旨の御質問をいただきました。これは、まず私に事務的能力に欠けるのではないかという疑問と受けとめられたということで、私としては反省しないかなと思つるところでございます。

私は、これまで2期8年にわたりまして市政をお預かりしてまいりました。この間、私の技術力を十分に発揮したかということにつきまして全く自信がございませんが、一方、法制や財政等に関しますいわゆる事務的能力について、おまえは足りないとおしかりをいただいたこともございません。そういう記憶はございません。そういう意味で御心配の向きもあるのではという御指摘でありますけれども、私といたしましては、なお一層事務的能力につきましても研さん努力してまいりたいと思えます。

また、行澤氏におかれましては、先ほど申し上げましたように、市政のさまざまな分野で職務に従事されてきた方でありまして、本人の卓越したマネジメント能力、実行力を評価したものであります。

私、副市長人事にかかわらず、すべての私が行います人事につきましては適材適所を旨としておりまして、今回技術職だから行澤氏が副市長として能力に欠けるというような見方は、私は全くいたしておりません。

最後に、副市長に対する期待についてのお尋ねでありましたが、議員御指摘の事務事業の適性化につきましては、組織や事務事業の管理をしてこられた行澤氏は事務方のトップとして十分な知見を備えておられるものと確信しております。

私は、さまざまな課題を解決し、重点施策を実現していくためには、今後ますますスピード感を持った組織運営が必要不可欠であると考えております。そうした観点から、行澤氏の豊富な行政経験と高い実行力に大いに期待しているところでございまして、これまで以上に、私といたしましては、スピード感を持ったトップマネジメント体制でもって市政運営に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく御理解のほどをお願いいたします。